

# 戯曲の読み方

宮沢 章夫 Akio Miyazawa

戯曲が不思議なところはないが、「読みづらい」と人に思わせるところで、知人のある編集者が「戯曲はだめなの」とまるで芝居の台詞みたいなことを口にした記憶が甦るがそのときはっきり質問すればよかった。

なにがだめなの？

だが、知人の編集者はかりではなくそれが一般的な感想らしく、「だめなの」とまでは口にしてなくとも、「どうも苦手でね」とか、「あんまり読まないで、戯曲」と言われる。エッセイ集を出しませんかと連絡してくる編集者は次々と現れるが、「戯曲を出しません」と持ちかけてくれる編集者はめつたにいない。「これは『画集を出しませんか』と持ちかけてくれる編集者がいない」とはわけがちがつ。なにしろ、画集の場合、絵を描いていないとまずいが、あいにく私は画家ではないのだった。なにゆえに「どういふことになつてゐるのか、知人の編集者に『戯曲はだめなの』と口走らせた、その当の戯曲になんがあるのか。それでたゞえ、誰も次のような問いを思い浮かべるのではないかと私は想像する。

戯曲と『資本論』はどっちが読むのに苦悶するか。  
へつに『資本論』でなくても、『千のプラト』でもいいし、『純粋理性批判』や『法哲学批判』でもいいが、その質問すれば誰もが即座に次のように答えるはずだ。  
「断じて戯曲」  
それはつまり、『資本論』や『純粋理性批判』が広範な読者を想定しているのに反して、『戯曲』が、そんなものがあるかどうかわからないが、『R東海機関士特殊読本』とか、『毛

配便配達内部文書』『東京都水道局水道管破裂時特殊工作技法』といった、ある特別な人たちだけに理解される書き方がされている」というイメージが先立つからではないか。広辞苑に、「上演する目的で書いた演劇の脚本。台本」と戯曲「の項にあることを考えても、戯曲における、特別な人とは次のような者たちのことになる。

演出家 俳優 舞台監督……。  
だとするならば「戯曲を読めるなんて、こいつは立派だ」と誰もが考えがちだが、けつしてそんなことはない。なに、単に経験が読ませるので、戯曲から出現する舞台空間を想像することが経験としてできるに過ぎず、そしてなににより重要なのは、戯曲は単に舞台作りのためのマニュアルや図面ではなく、『東京都水道局水道管破裂時特殊工作技法』とはまったく異なる種類のエクリチュールだということだ。つまり読み物である。

それでもやはり、知人の編集者に「戯曲はだめなの」と言わせるものがあるとするれば、それがなにかを考えなければいけない。  
たとえはここに、ベケットの『行つたり来たり』という作品がある。もちろんベケットといえは、『ゴドー』を待ちながら、『誰も私がすぐに思い浮かべるが、ここで、行つたり来たり』を取りあげるのは、短くて話が手取り早いからではなく、まあそれも理由のひとつだが、戯曲の「構造」がわかりやすいとして、『ベケット』といふ名前から出現するある特別なイメージ、間違つたイメージを、「構造」といふ側面から解くと思つたら、そ

れはそのまま、戯曲に対する誤解と強迫から、読者を解放することになるはずだ。  
まず献辞がある。「ジョン・コールドーのために」  
するとこれを眼にした者のなかには、「誰だそりやあ」といきりたつ者もいるかもしれないが、まあ落ち着いてきただいたい。落ち着き、勇気を持って、「ここはひとつきつぱりとした態度で読み飛ばそうではないか、ジョンのことなんか知るもんか」などと口走つて読み飛ばせば、いよいよ戯曲のはじまりである。  
「舞台中央に、肩を並べて、客席に向かって、両手を膝の上で合せて、非常にまっすぐに座つてゐる、フロとヴァ」とり、

つまり、三人の女がいるといふことだ。横一列に並んで腰を降ろしている。そして、ここでの構造はごく単純なもので、それは私がいま引用している、白水社の『ベケット戯曲全集』の解説通り、「幾何学的」な姿をし、数学のような精緻さであることが反復される。つまりこうだ。  
「三人のうち、一人が立ち上がつて姿を消す。すると残された二人が、去つた女の話をする」  
よく読めば、構造はそれだけ、そこに付加されるのは、去つた者について語るとき、きまつて耳元で囁くことで、だから何が語られるのか戯曲には記されないし、なにが問題になつてゐるのかも、「読者」や「観客」にはわからない。三人の女は一人ずつ順番に去る。何をしに行くのか不明だし、去ればきつと自分のことをあとの二人が噂するに決まつてゐると知つていながら去つてゐるのじゃないかとも思

え、噂をさせよつとして立ち上がったかのように見える。戯曲には次のような指摘もある。  
「退場も出場も不意で軽快で、足音がしない」  
最後に三人で手をクロスさせて握り合つのだが、それもまた幾何学的であり、作品を象徴しているかのようだが、だからといって、作品を理解しようとするれば難解で、解釈しようとするれば、別役実が『ベケット』といひじめ、でしよつたような精緻な分析が必要とされるだろう。それで人は思はず、「わかんねえよ」と本書を投げ出したくなるが、ここはひとつ構造だけを見、「ジョン・コールドーのために」を読み飛ばした勇気を思い出し、いったいこの三人は何者なんだ、ここはどこなんだ、いったいなにしゃべつてるんだおまえらはと腹を立てずに、作品名にもなつてゐる、人が行つたり来たりする様をただ風景のように楽しむしかないだろつ。  
そして構造である。

かつて井上ひさしがてんぶくトリオのために無数のコメントを書いたことはよく知られているが、その大半がほぼ同じ構造によつて賞かれていたのもよく知られている。  
「三人のうち、一人が立ち去ると状況が変化し、帰つてくると、また元に戻る」  
三人である。  
三人いれば、誰かが去るのだ。そして、そこにこそドラマは発生する。ドラマを発生させるもの、すなわちエンジンともいふべきそれが、ここで語られるべき構造、つまりドラマツルギーといふやつだ。三人でなければいけなかつた二人だつたらどうか。一人になつてしまふ。さみしいじゃないか。四人だつたらどうか。一人去つたら、残りは三人。また一人去りたくなるやつがいて、段取りが面倒だ。  
とにかく、ベケット作品と井上作品がここにおいて奇妙な相似を見せる。誰もベケットとてんぶくトリオが似てい

るなんて考えもしなかつたが、それこそが「戯曲」に対する誤解であり、ただ単に、会話体の言葉が並んでいる文章程度でしか戯曲を読まないのであれば、その背後の、いきいきとした構造、いきいきとした人物たちの姿は見えてこないだろつ。  
読むべきはそこだ。  
別役実の『天才バカボンのパパなのだ』は、どうなつてしまふのか、先のことはよくわからない」といふ構造によつて人々は奇妙な行動に駆り立てられるが、たとえば、事情聴取していた巡査が、調書を書きながら唐突に「この口にするだろつ」  
靴脱いじゃあつかない  
それは物語にとつて重要な出来事ではないし、話の展開上、なにが必然性があるのでもない。唐突に発せられ、そのことによつて話は微妙に歪んだ方向に向かう。さらに巡査は靴を脱ぎ、ヘルトをはずし、シャツを脱ぐ。見ていたバカボンのパパがだしぬげに言う。  
「よし、私も脱ぐ」  
なぜなんだ。へつに、「靴脱いじゃあつかないよし、私も脱ぐ」が言葉として面白いのではない。構造である。構造から導き出された人の行為と言葉がここではすぐれたリアリティを持つから面白いのだ。  
へつにそれは喜劇的な状況や構造だけではなく、悲劇にもまたあてはまり、そして、喜劇なのか悲劇なのかわからない出来事によつて埋め尽くされた時代だからこそ、戯曲はその姿を新しい構造によつて描き出すことで、現在のなエクリチュールであることをやめない。戯曲を読む楽しみとはつまり、構造によつて導かれたリアリティを味わうことだ。いきいきとした身体にうつとりし、言葉の息づかいに魅せられる。写実や自然主義のことでけつしてない。  
「よし、私も脱ぐ」  
そんな自然主義があるものか。（筆者＝劇作家）

## 愛書狂

パリに行くとかならず足を運ぶのがカルナヴァレ美術館の書籍部である。パリに関する新刊本がすべて集められているので、FNACなどよりも効率よくこのジャンルの本を涉獵できる。先日、風変わりなパリ・ガイドを数冊買つてきた。一冊はクリストフ・ブルセイエ『もう一つのパリのガイド』（バルティア社）。これはパリ二十区の「奇妙なパリ」、深夜営業の店、突飛なフティック、規格外れのホテル、特殊な本屋、へんてこな公共施設とモニュメント、不思議なレストラン、知られざるミュージアム、パロツクの劇場と映画館」を紹介したティープ・パリのガイドである。スキン・ヘッド御用達のフティック・ロンドン・スタイル、スワッピング愛好家のレストラン、ラ・ストリア」などと並んで、「特殊な本屋」が紹介されている。エソテリスム関係のほかには、意外に多いのが亡命者相手の書店。たとえば、五区モンジュ街の「ガング・リ」は手ペツト亡命者の経営する反中プロバガンダの書店だそう。パリが亡命者のサンクチュアリであることを改めて認識する。もう一冊はカレン・エリザベス・ゴードン『見いださないパリ』（アップヴェイル社）。こちらはマックス・エルンストの『百頭女』のコンセプトに則つて現実と空想をコラージュしたものだ。たとえば現実には存在する「ウエ・ギヤルソン（不良）通り」にヒントを得て、モーヴェ・ギヤルソン・マンケ（男）になりそこなつた不良少女（女）通りというのを作り、その小学校中退少女たちの経営するフランスを紹介するといふ具合である。IT革命のせい

か、ガイドブックも妙に詳しくすぎるオタク情報の世界になつてきたようである。（鹿）

# カルタゴの名将の壮大な歴史読物

## 「ハンニバル アルプス越えの謎を解く」

ジョン・プレヴァス 著



に覆われた峠を進軍する間にも、多くの兵士が絶壁から谷底へ転落した。アルプスでの厳しい訓練を越えた者たちも、飢えと寒さから半死状態だったという。  
ハンニバルはこのような困難なアルプス越えを成し遂げ、イタリアに侵攻した。トレツビア、トラジメーノ湖、カナエといった合戦にも勝利を収め、イタリアを思いのままに荒らし回った。ローマの城門も目前にした。  
しかし、カルタゴの首都防衛のためハンニバルが本国に戻ってから、ローマの反撃が開始された……。

歴史家ポリュビオスは、「ローマとカルタゴの間に起こったことは、すべて一人の男によって引き起こされた。その男の名はハンニバル」と記した。ローマとカルタゴの間で行なわれた三つの戦争のなかで、最も多くの生命と財宝が注ぎ込まれたのが第二次ポエニ戦争であり、「ハンニバル戦争」と呼ばれる。

その戦争は、ハンニバルが軍隊と象を陸路を引き連れ、フランスアルプスを越え、イタリ

アへ攻め込み、十五年間本土に居座り、しかも戦えば必ず勝利したというものだ。そのなかでも最大のクライマックスは、ハンニバルのアルプス越えだ。二千年以上も前の学者、探検家、軍人、皇帝までがその峠の解明を試み、古代史上のミステリーとなった。

ハンニバルが越えたアルプスの峠はどこなのか？ 本書はポリュビオスやリウイスなどの歴史家の史料を検証し、しかも実際にハン



屋根裏から発見された藁人形／人形に助けられた大工の話／大工が女房を殺す話など、今も秘密めいて語られる建築の伝承を手がかりとして、著者はその民俗世界の謎解きを始め、殺された女房に象徴される霊威とは何かを探っていく。そして家屋や屋根などの施設、琴や太鼓などの器物に宿る樹木の精霊

# 木霊(こだま)の鎮魂歌

## 「木霊論 家・船・橋の民俗」

神野善治[著]

(木霊(こだま)のささやき声に耳を傾ける。本書は、これまで民俗学がさかんに論じてきた座敷童子(わらし)・河童・船霊(ふなだま)・橋姫・人形遣いの傀儡(くぐり)・御柱祭(おんばしらい)などの世界を、「木霊」という斬新な視点から再評価する試みである。「木霊」にちなむ説話・儀礼・祭礼の地を訪ねて、著者の考察は緻密かつ壮大

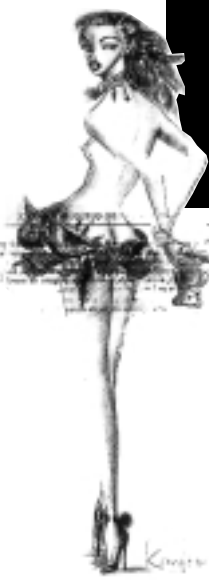
- 第一編 家屋に宿る精霊 建築儀礼と人形
- 第一章 屋根裏の人形と呪物
- 第二章 大工が人形を使って建築をする話
- 第三章 河童の起源と藁人形
- 第四章 大工が人形を作る習俗
- 第五章 棟上げの由来と女人犠牲譚
- 飛騨の匠と左甚五郎

- 第二章 器物に宿る木霊
- 第一章 木子と傀儡
- 第三章 橋姫再考
- 第四章 木遣りと御柱 樹から柱へ
- じつくり読み味わっていただきたい一冊である。
- (A5判 三三七頁 本体六五〇〇円)

# 美しいものだけを求めて

## 「美貌帖」

金子國義 著



いるのだらう。

異才・金子國義は、織物業を営む家に生まれた。最初に意識した色は、母の着物の紅絹裏の赤。娘のころに作った胸裏を白に仕立て替えたので、行李の中は紅絹の端切れであふれていたといふ。

それを見つけたとき、夕日の裏庭で咲き乱れる鶏頭の中に迷い込んだ時のように目が眩んだが、鮮やかな赤が作品に多く使われるのは、幼年時代のそつした体験が影響を与えて

物心ついたころはすでに踊りや芝居が好きで、母の嫁入り道具の籠甲の簪や櫛などを筆筒の奥から引っ張り出し、鏡を見ながら化粧をしたりしていた。

に憧れる性格だった。ナルシストで、三面鏡に顔を突っ込んで鼻をつまんだり、目を吊り上げてみたりして、時間のたつのも忘れていたそつだ。

まるでフロバールが「マダム・ボヴァリーは私だ」と言っているように、エドワルドであらうとアリスであらうと、無意識のうちに自分自身ではないかと錯覚していた。

そついう点で、金子國義は自分が陶醉でき

〇円 11月下旬発売

# 白水社 創立85周年記念企画

表示価格は税別です。別途に消費税が加算されます。

# パリ歴史事典

アルフレッド・フィエロ 著 鹿島茂 監訳

青木真紀子、荒木善太、尾河直哉、谷ともし、中条志穂、中条直平、塚本昌則、野崎敏、平岡敦、平野隆文、堀江敏幸、松村恵理、松村剛一 訳

文化・政治・思想から芸術・風俗・習慣まで

数多の項目に浮かびあがる

千年の都パリの素顔。

人間のあらゆる営みを描きだした、読み物としても抜群に面白い事典です。



A5判 / 798頁 / 箱入  
9,500円  
発売中

……ありとあらゆる史実が、豊富な興味深いエピソードとともに、ぎっしりと詰まっている。もちろん必要に応じて、求める項目に当たって見るのもいい。読者は十分に満足できる具体的な情報を得ることが出来るに違いない。(中略)しかし本事典の本当の魅力は、まさにパリの魅力そのものと同じく、散歩する楽しさ、何気なくページを繰る面白さにある。

木村尚三郎

## この事典の特色

食のあらゆる分野にわたる見出し二四〇〇、副見出し・小見出し多数。古典料理からブルジョワ・地方・家庭料理までのルセット二五〇〇。見出しには仏語・英語・伊語の綴り、仏語発音力ナ表記付き。時代区別別に食の世界とその歴史的背景を解説。各地方ごとに食材や料理の特徴、ワイン、チーズなどを記載。食材や料理名の由来、語源を説明。矢印で関連事項に進める。食材からも、調理法からもルセットを検索できる。器具や容器、生地折り方、肉の部位などはイラスト付き。索引は日本語索引、仏・英・伊語索引の二本立て。

菊判 / 928 + 8頁 / 箱入  
12,000円  
発売中



食材、飲物、菓子、料理人、美食家、レストラン、そしてルセットと、世界に冠たるフランス食文化のすべてがわかる。

日本語索引、仏英伊語索引付き。

日仏料理協会 編

宇田川政寛、遠藤智子、加藤綾子、橋村弘美、堀田小百合、牧野祐子、矢舟啓修  
【協力】大庭麻、河村育三、シヨルシユドラングル、田中健一郎

# フランス食の事典

# 忘れがたく心にしみいる物語

## 「イルカの歌」

カレン・ヘムス作



きたわねがすき

人間の乗った飛行機がやってきて、彼女を見つけた。人間の世界に連れていった。この物語はここから始まる。

研究所に送られた少女はミラ(奇跡、ミラクルのミラ)と名づけられ、ベック教授という女の先生に言葉を教わる。「ベックせんせい、はなはなはな? あたしははなのえをゆびさす。ベックせんせいがいう。よくできたらね、いいわよ、ミラ。あたしは、よくで

きたわねがすき  
みるみるうちに言葉をおぼえ、人間らしくなっていくミラ。だが彼女には、人間の世界の約束事がない。なぜ他人の家に入ってはいけないのか? いっしょに言葉にならっている少女シェイは、なぜ自分と同じように進まないのか? ある日ベック先生が持ってきてくれた音楽のテープとリコーダー

は、ミラに新しい喜びをもたらす。美しい音楽を聴き、自分でそれを作りだす喜び! だが、ミラがこつそり家をぬけて近所の川で泳ぎ、病気になる。部屋には鍵がかけられる。政府の命令だからだ。ミラにはわからない。なぜ、せいふはあたしをこめたりできるの? 人間への不信感が芽生え、ミラの苦しみが始まる。同時に海へイルカたちのもとへ帰りたいという思いが……。  
全米図書館協会ヤングアダルト部門のベストブックをはじめ数々の栄誉と賛辞を受けたこの小説は、ひとりの野生の少女が人間になつていく過程で出会うさまざまな喜びと苦しみ、まるでモーツァルトのソナタのように繊細な文章で描きだし、我々に、人間であるとは何を意味するのか、という深い問いをつきつける。(金原瑞人訳 四六判 二〇四頁 本体一五〇〇円)

# 国際アンデルセン賞受賞作家の傑作

## 「悪童ロビーの冒険」

キャサリン・パターソン[作]



「神様があと半年でこの世を終わりにするなら、ぼくはつんと悪い子になってやる。」  
一八九九年の世紀末、アメリカ、ヴァーモントのいなか町。牧師の息子のロビーは、神様なんか信じないと決めた、反抗心あつ盛な十歳のわんぱく少年だ。七月四日は独立記念日。パレードと花火が楽しみだ。ロビーと親友のウィリーはパレードに荷車で参加する。そこで金持ちの息子のウェストン兄弟の自転車で荷車をぶつけてしまい、けんかしてしまう。でも、ロビーはくつとけんかこつをこらえる。実はロビーの夢はいつか汽車に乗って遠くへ行くこと。それに自動車にも乗ってみたい。だけどいちばん現実的な望みは自転車を手に入れることなのだ。

「神様があと半年でこの世を終わりにするなら、ぼくはつんと悪い子になってやる。」  
一八九九年の世紀末、アメリカ、ヴァーモントのいなか町。牧師の息子のロビーは、神様なんか信じないと決めた、反抗心あつ盛な十歳のわんぱく少年だ。七月四日は独立記念日。パレードと花火が楽しみだ。ロビーと親友のウィリーはパレードに荷車で参加する。そこで金持ちの息子のウェストン兄弟の自転車で荷車をぶつけてしまい、けんかしてしまう。でも、ロビーはくつとけんかこつをこらえる。実はロビーの夢はいつか汽車に乗って遠くへ行くこと。それに自動車にも乗ってみたい。だけどいちばん現実的な望みは自転車を手に入れることなのだ。

ロビーには知的障害をもった兄のエリオットがいる。牧師のパパはいつもエリオットのことばかりかまっている。ロビーはあまりおもしろくない。そのエリオットが花火の夜に迷子になる騒ぎがおこるが、無事に見つかった。もちろんロビーはほつとしたけれど、やっぱりパパはエリオットのほうがか心配だ。だからどつしても嫉妬してしまう……。  
翌朝、のどになにかつかえているみたいだ。パパは疲れてまだ眠っている。ロビーはやさしいママのオートミールにメープルシロップをたっぷり入れて、反抗をこころみる。ロビーとウィリーは森に秘密の小屋をもっていた。ロビーはエリオットのことを考えながら、一人で小屋に出かけた。そこには、よつぱらいのゼブと生意気なウィーラという父と娘の浮浪者が入りこんでいた。二人はどつやら逃げまわっているみたいだ。ロビーはほ

じめはいやだったけれど、食べ物からもつてきてやり、すこしずつうちとけてゆく。次の日、ロビーとウィリーは沼へ泳ぎに出かけた。あのウェストン兄弟もやってきて、ロビーの服を沼に投げ捨てて、パパとエリオットの悪口をいはいじめた。頭に血がのぼったロビーは兄のほつを水中に押さえて、あやつく溺れ死にさせそうになる。  
自分のやつた恐ろしい行ないを恥じたロビーは、悪者に誘拐されたこととして、身をひそめようと、秘密の小屋へと向かう……。そこには、ロビー、ゼブとウィーラ、そしてエリオットに、ハックルベリー・フィン『ばり』のさらなる冒険が待っていた!  
国際アンデルセン賞、ニューベリー賞受賞作家による本書は、牧師の息子がまきおこすゆかいな大騒動の物語だ。(岡本浜江訳 四六判 二二〇頁 本体一六〇〇円)

# 現代女性の恋愛観を描く一作

## 「萩家の三姉妹」

永井 愛作



地方都市の旧家に育った三姉妹。長女の鷹子は大学の助教授、フェミニストだが、同じ大学の同僚・本所武雄と不倫関係にあった。次女の仲子は毎日の生活に不満もない専業主婦。その良妻賢母ぶりが夫の宏和には気に入らない。三女の若子はバイトも彼氏もたびたび変えるような典型的なパラサイト・シングルである。この萩家に鷹子と仲子の幼なじみ

で、いまは脱サラをして農業を志す聡史が訪ねてきた。聡史の妻・文絵は主婦業の毎日にあきたらず、絵本作家としてデビューを果たそうとしていたが、ストレスで心のバランスを崩しがちであった。聡史は慣れない農作業や文絵への気疲れから癒しを求めて、たびたび萩家を訪ねるようになった。そんな聡史に仲子は同情するが、いつしか二人の間には恋

萩家を密会の現場にされ、鷹子と若子は否応なく仲子の不倫騒動に巻き込まれていく。仲子を批判する鷹子だが、じつは武雄との対応に追われ、また若子は男らしさにこだわる徳次と軟派の鉄夫との間で揺れていた……。四季の移ろいのなかで、この三人の姉妹が繰り広げる恋愛の物語が進んで行く。  
第44回岸田國士戯曲賞受賞第一作。  
(四六判 一六一頁 本体一九〇〇円)

白水社刊 岸田國士戯曲賞受賞作品  
渡辺えり子 本体一五〇〇円  
ゲゲゲのげ 連続時に揺れるフランコ(第27回) 十一人の少年(第28回) 本体一八〇〇円  
大橋泰彦 本体一四〇〇円  
ゴジラ(第32回) 宮沢章夫 本体一九〇〇円  
ヒネミ(新版)(第37回) 柳美里 本体一七四八円  
魚の祭(第37回) 鴻上尚史 本体一五〇〇円  
スナフキンの手紙(第39回) 松尾スズキ 本体一九〇〇円  
ファンキー! 宇野浩二の所まで(第41回) 深津篤史 本体一八〇〇円  
うちやまつり(第42回) ケラリーノ・サンドロヴィッチ 本体一八〇〇円  
フローズン・ビーチ(第43回)

表示価格は税別です。別途に消費税が加算されます。

# 白水社 創立85周年記念企画

# カフカ小説全集

全6巻

## 池内紀(個人記)

長い間待たれていた、カフカの手稿そのものをテキストとした新校訂版全集。新たな光に照らし出されるカフカ文学を、池内紀個人記で贈る21世紀への遺産。



全巻内容
失踪者
審判
城
変身ほか
万里の長城ほか
錠の問題ほか

第1回配本・第1巻

# 失踪者

従来「アメリカ」として知られていた作品だが、本全集ではカフカ自身の命名によるタイトルに戻されている。主人公カール・ロスマン青年がアメリカ社会を遍歴したあぐく大陸の一点で失踪する。

四六判 / 350頁  
2,800円  
2000年11月中旬発売

# アナトール・フランス小説集

「新装復刊/全12巻同時刊行」  
渡邊一夫、伊吹武彦、杉捷夫/他(訳)

真の小説好きの味読に耐える長篇と珠玉の短篇を集める。端麗な文章と軽妙な諷刺で人間の愚かさといとおしさを鮮やかに描き出す、フランス文学の最高峰。

全巻内容
シルヴェストルポールの罪 2600
神々は湯く 2800
舞姫タイス 2600
赤い百合 2800
小さなピエール 2600
バルタザール 2400
螺鈿の手箱 2600
聖女クララの泉 2600
克蘭クビエ 2400
ギンクワトルドロシエのソネット 2400
青ひげの七人の妻 2400
ジヨカストとやせ猫 2400



各四六判 / セット30,600円  
発売中

# グイヨン詩集成

天沢退一郎(訳)

十五世紀、放浪の詩人グイヨンが遺した詩篇を、現存する様々な写本、異本にあり、詳細な注解を付して訳出・集成したミレニアム二〇〇〇グイヨン詩集。天沢退一郎現代口語訳。

四六判 / 424頁  
4,500円  
発売中



メルヘン・レストランへようこそ！  
「グリム家の食卓」  
手作りのオリジナルレシピ210  
ウィリ・シュトワーベンフォルト編

ドイツ・ヘッセン州の博物館に「芸術と奇跡の書」と題された2冊のノートが大切に保管されています。タイトルから推して、19世紀前半の飢饉とグレルメが混在していた時代に、ドロテアが妻として母として、どう腕をふるったかを示す好資料であるの言うまでもありません。同時に読者を、童話の主人公がどんな物を食べていたのか、そんなメルヘンの世界へと誘ってしてくれるでしょう。本書には豪華な料理もありますが、レモンクリームやあんず酒など、手軽に楽しめるものも盛り沢山で、自然にシッブル 美味 が基本です。食材は今でも入手できるものばかりです。グリム家の伝来のこの家庭の手作り料理を再現すれば、「自宅メルヘン・レストラン」に早変わり！ 子どもたちと団欒の花を咲かせてみてはいかがでしょう。

なお巻頭には、グリムファン必読の童話と料理に関する5つのエッセイが収録されています。

(石川光庸、石川サスキア訳 四六判 一七〇頁 本体一八〇〇円)

「現代フランス広文典」【白水社創立85周年記念企画】

目黒士門【著】

大正15年の「仏蘭西廣文典」に発し、ロングセラーを続けてきた「新フランス広文典」の全面改訂新版。発音、文の構成から句読法まで、正しく読み、書き、話すために必要な文法事項のすべてを統辞論に目くばりしながら品詞別に詳述し、豊富な注によって、学習者が突き当たる例外についても細もろさず言及、詳細な事項索引と語句索引によって事典機能も備えた21世紀の広文典。通読して文法の奥深さを学び、座右に置いては、あらゆる疑問に答える友となる、入門者から研究者まで本格的フランス語学習に欠かせぬ一冊。【文典＝文法を説明した書物（広辞苑）】

A5判 406頁 本体3600円

「ドイツ語リスニング入門」【CD付き】

平高史也【著】

ナチュラルスピードが聞きとれる！ リスニング・ノウハウ満載のCD付一冊。CDには、現地生録音の自然なドイツ語をたっぷり収録しました。本編は、各課スタジオ録音中心のステップ1と、ドイツでの生録音を扱うステップ2を組み合わせた2段階構成。目からうろこの「聞きとりのテクニック」、実用的な「ワードバンク」で、必要な情報が聞こえてきます。

A5判 155頁 本体2800円

「日・中・英対照 実戦ビジネス中国語単語集」

塚本慶一、大森隆之【著】

ビジネス・コミュニケーションで使用頻度が高く重要な、最新用語を含む約3000語を収録。会社・産業・経済・貿易・金融・随行の分野に大別し、さらに中・小項目に分けて配列。日・中・英を見開き頁に併記。巻末に日本語索引も付き、引きやすさ抜群のビジネスマン必携の単語集。付録＝国と首都、外交用語、化学元素など、約700語。

B小型 292頁 本体2200円 11月下旬発売

「現代ギリシア語を書いてみよう 読んでみよう」

福田千津子【著】

アナタはあの不思議なアルファベットを見てクラクラした経験がありませんか？ そんなギリシアの文字を実際に書き・読み・楽しんでしまおうというこの本。すべての文字の書き方・読み方をひと通り手ほどきします。その後は、アテネ市内で見つけたいろんな文字の渉獵へご招待。3000年の歴史を持つ奇跡のエクリチュールと、戯れてみましょう。文法ナシでも全然OK！

A5判 123頁 本体1900円

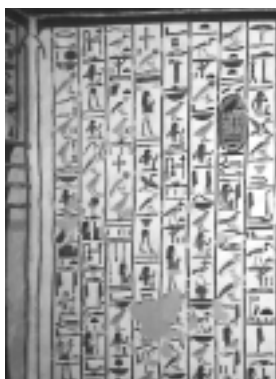
文字を解読する喜び

「ヒエログリフを書いてみよう 読んでみよう」 古代エジプト文字への招待

松本 弥【著】

毎年のように開催される古代エジプト展、展示品の造形の魅力もさることながら、そこに描かれた鳥や蛇目や足の形で表されている装飾に目を惹かれた方も多いのではないのでしょうか。それらはれっきとした古代エジプト語の文字であり、英語などのアルファベットと同じく表音文字の要素をもつものなのです。

古代エジプトを理解するうえで、この文字、ヒエログリフの学習は欠かせることができません。本書では当



時の文化的な背景や歴史にも触れながら、ヒエログリフの書き方や特徴そしてさまざまなテキストを楽しく解説していきます。

第一章では、ヒエログリフのアルファベットの書き方や並べ方、数詞などを懇切丁寧に説明し、つづく第二章では、ヒエログリフで書かれた王や神の名前、日付や計算式などを解説していきます。最後の第三章では、それまで習得した知識をもとにヒエログリフ解読の手掛かりとなったロゼッタ・ストーンや黄金のマスクで有名なツタンカーメン王の碑文、また宗教書や教訓、ラブレターなど、ヒエログリフで書かれたさまざまなテキストに挑戦していきます。練習問題多数掲載。巻末単語集・年表付。

(A5判 一三六頁 本体一八〇〇円 12月上旬発売)

「文庫クセジュ 832」  
「クレオール語」  
ロベール・シヨタンソン【著】

ヨーロッパの植民地にて育まれ、特別な歴史を体現する言葉。クレオール語は、「文字を持たない言語」として知られる。はたして、クレオール語はどのように誕生したのか？

クレオール研究国際委員会の委員長でもある著者は、ビジョン語との比較検討や研究成果を手際よく紹介したうえで、社会言語学に基づきながら独自の説を提唱する。クレオール文化にも音楽・料理の観点から迫っている。(糟谷啓介、田中克彦訳 新書判 一八二頁 本体九五二円)

「文庫クセジュ 833」  
「レトリック」  
オリヴィエール・ブル【著】

「誰であるかが説得してしまつ術」として知られるレトリックは、「技術」であると同時に、「この技術を「教育すること」を、さらには、「この技術に関する」理論体系をも意味している。本書は、ギリシア時代から育まれてきたレトリックの歴史と仕組みを、古来の訴訟記録や文学作品のほか、二十世紀の政治家の弁論や宣伝広告におけるコピーなどからも具体的な事例を拾い、わかりやすく解説する。(佐野泰雄訳 新書判 一八二頁 本体九五二円 11月下旬発売)

編集者

とかく機械がもてはやされる時代である。最近書店さんを訪ねると、語学書売り場やレジの周辺に電子辞書を発見することだらばら。どんなものかと思いつきながら手にしてみると、小型ながら英和・和英・国語辞典が収録され携帯にかなり便利。英語以外の外国語を収録したものもある。そつが最近はこのついでものを使つたかと思つても、分厚い辞典の中から一つの単語を探するために頁を繰った自分としては「ことごとく寂しい気分」。

『和西』の改訂は一九九二年旧版を1ページずつスキヤナーEpson GT8000にかけ、当時最先端のMadis、初代のOCRソフトMacReaderでデータ化することから始まった。遅い認識精度は悪いし、ひどい力業だった。ぶ、ぶのようミスが今でも発見される。当時、パソコンで辞書を作っていると言つたら、某印刷所の人から鼻の先で笑われた。気づいてみれば、この間にデジタルで編集した西語辞書は3冊目となる。(M)

辞典

表示価格は税別です。別途に消費税が加算されます。

白水社の本棚  
101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24 / 振替00190-5-33228 / 電話03-3291-7811 / http://www.hakusuisha.co.jp

パスポート・デュオ  
仏和・和仏小辞典



内藤陽哉 / 玉田健二 / C.レヴィ アルヴァレス【編】

「仏和」+「和仏」+「会話」と一人三役の多機能辞典。ハンディで小さなボディが、大活躍！

B小型 / 640頁 / 2色刷 2500円【12月上旬刊】

読みやすいカナ発音の辞典です。旅行に、オフィスに、学習に、とどんな場面でも役立ちます。多彩な情報を平易・簡潔に盛り込みました。年輩者にやさしい大きめの文字は圧倒的な読みやすさです。

仏和は15,000余語、大量の現代情報をコンパクトに凝縮。日常生活に必要十分。和仏は5,000余語、用例入りの本格仕様。的確な表現力を約束します。会話はストーリーをもった実戦仕様。即戦力となる頼もしさです。

和西辞典【改訂版】

宮城 昇他【編】

最新のスペイン語情報を手に入れてください。初級の学習者から旅行者、ビジネスマンまで、かならずお役にたちます。

B6変型 / 約1400頁 4500円【12月下旬刊】

ネイティブが校閲した自然なスペイン語  
たくさんの例文で用法がわかる  
中南米のスペイン語も詳しい  
見出し語はカナ表記  
小見出しを多用した見やすい項目構成  
古くさい日本語ははぶいて、新語や専門語を大幅にふやした  
見出し語数35,000、収録した単語と表現65,000  
文法、場面別表現、ジャンル別語彙など185項目の囲み記事  
豊富な付録(地名・国名、人名、作品名、年表、手紙の書き方)